

(生徒数215人)である。なお、設置学校名と学級数は次のとおりである。(カッコ内が学級数、~~~~線は本年度新設)

〔小学校〕

福島四小(3)大笹生小(2)二本松南小(1)芳山小(2)須賀川一小(1)須賀川二小(1)棚倉小(1)石川小(3)城西小(1)東山小(1)喜多方一小(2)平五小(1)小名浜(2)湯本二小(2)浪江小(1)中村一小(3)湯本一小(1)長倉小(1)小高小(1)原町一小(2)謹教小(1)

〔中学校〕

福島四中(2)信陵中(1)郡山二中(1)須賀川二中(1)石川中(1)若松二中(1)平三中(1)小名浜一中(1)中村一中(1)湯本一中(1)白河中央中(1)原町一中(1)

② 病弱虚弱

現在(37.3.15)、県内の病弱虚弱特殊学級は、小学校4学級、中学校4学級、計8学級である。なお、設置学校名と学級数は次のとおりである。(カッコ内は学級数、設置場所)

〔小学校〕

藤田小(1・藤田病院)開成小(1・郡山病院)須賀川一小(1・須賀川国療)大野小(1・大野病院)

〔中学校〕

県北中(1・藤田病院)郡山六中(1・郡山病院)須賀川三中(1・須賀川国療)大野中(1・大野病院)

(2) 特殊学級の課題

文部省では、昭和36～40年の5年間に、全国の市および人口3万以上の町に対し、精薄学級の設置を計画的に勧奨することになっている。県内14市について、文部省計画による必要学級数と現有学級数をくらべてみると、合計34学級の不足となる。その内訳は次のとおりである。

福島市(小1・中2)二本松市(小1・中2)郡山市(小2・中3)白河市(中1)会津若松市(中2)喜多方市(中2)平市(小2・中2)内郷市(小2・中2)常磐市(中1)磐城市(小1・中2)勿来市(小2・中2)原町市(中1)相馬市(中1)須賀川市(中1)

そこで本県としては、昭和37年度から、少なくとも毎年8～10学級くらいずつ新設することが必要になってくるわけで、大きな課題となっている。

(3) 研究会等の実施

① 昭和36年度特殊教育研究会

◇主催 県教委・浪江町教委・県特殊教育研究会

◇期日 36.6.13～14

◇会場 浪江町立浪江小学校

◇講師 東京都台東区立黒門小学校教諭

相沢 勇一郎

◇研究主題

特殊学級の指導技術——特に図画工作科の指導について

特殊学級経営の改善——特に教育課程ならびに指導要録について

② 昭和36年度精神薄弱教育講座(福島会場の部)

実施要項

1 目的

現に養護学校、特殊学級において精神薄弱教育に従事している教員のうち、比較的経験の浅いもの、およびこれから養護学校、特殊学級の教員になろうとするものに対し、その資質の向上をはかることを目的とする。

2 主催

文部省 福島大学 福島県教育委員会

3 後援

飯坂町教育委員会

4 期日

昭和36年7月28日(金)～8月4日(金)(8日間)

5 会場

飯坂町立大島中学校 (電話 飯坂150)

6 受講者

秋田 山形 岩手 宮城
福島 群馬 茨城 千葉
埼玉 東京 神奈川 山梨

の12都県

各都県の受講者割当数は、10名程度とするが昨年度の講座以降に20学級以上の特殊学級が新設された都県等においては、多少の増加はさしつかえない。

7 講師および講義題目

(1) 特殊教育の現状

文部省特殊教育主任官 辻村 泰男

(2) 精神薄弱児の病理

福島医科大学教授 丸井 琢次郎

(3) 精神薄弱児と精神衛生

福島大学教授 須藤 春一

(4) 精神薄弱児と社会

東京大学教授 三木 安正

(5) 精神薄弱児の心理

福島大学助教授 工藤 正悟

(6) 精神薄弱児の診断と判別

東京教育大学講師 杉田 裕

(7) 養護学校、特殊学級の編成

文部事務官 花熊 四郎

(8) 精薄児の成長発達の段階と社会生活能力

東京学芸大学助教授 山口 薫

(9) 精神薄弱児の教育課程

文部事務官 花熊 四郎

(10) 精神薄弱児教育の変遷

東京教育大学講師 杉田 裕